

日本女子体育大学 ダンス学科

# Dance Letter

Vol.

49



## 卒業公演

## 卒業公演とは…

卒業公演は、ダンス学科4年生にとって大学生活の集大成となる舞台です。4年間で培った技術と表現、そして想いを、作品として発表します。各研究室による個性あふれる作品に加え、第一部では研究室の枠を越えて集まった有志による作品を上演します。

## 高野研究室 今村日南 (卒業生)

今回の卒業公演では、「存在 / 」という作品に、3年生から引き続き同じ12人のメンバーで取り組みました。

インプロヴィゼーションを軸に、それぞれの想いや感覚を持ち寄りながら創作を重ね、互いを尊重し合う中で一つの作品を形にしていきました。思い通りに進まない時間や葛藤もありましたが、そのすべてが作品を深める大切な過程であり、12人だからこそ辿り着けた表現だったと感じています。

4年間で共に駆け抜けてきた仲間と、この舞台に立てたことを心から誇りに思います。また、これまで支えてくださったすべての方々への感謝の気持ちを胸に、この大学での経験を糧にしてそれぞれの未来へと歩みを進めていきます。



## 中村研究室 清水心詠 (卒業生)

入学前から憧れていた卒業公演があつという間に幕を下ろしました。私たち、中村研究室は“人間”と“蟻”の生き方に着目し作品創りを進め、『Ant;Man』を上演しました。創作班を中心に、様々な考えを擦り合わせながら、自分の生き方について考えるきっかけともなり、卒業公演までの期間はとても濃い時間となりました。

研究室の時間は、あたたかな雰囲気が出るのが強みであり、そんな特徴をもつ私たちですが、もちろん全てが上手くいくわけではなく、創作過程では、作品について話し合えば話し合うほど正解がわからなくなることもありました。ですが、その根底には作品を良くしたいという気持ちと、全員が相手を思う気持ちで溢れていたように思います。この作品を踊ったからこそ、今後も考えることを放棄せずにそれぞれの道を歩んでいきたいと強く思います。

最後に、卒業公演を上演するにあたり関わってくださった恩恵先生はじめ、すべての先生方、助手の皆様、スタッフの皆様、お力をお借りした皆様に感謝申し上げます。また劇場まで足を運んでくださった皆様、ありがとうございました。心から幸せでした。



## 渡辺研究室 町田菜々花 (卒業生)

憧れであり、一つの目標でもあった卒業公演までの2年間の研究室活動は、決して平坦な道のりではなく、紆余曲折の連続でした。

個性豊かでバックグラウンドの異なる11人での活動は、互いに刺激し合える恵まれた環境である一方、その分衝突することも多くありました。それでも何度も話し合いを重ね、共に笑い、時にぶつかり、涙を流しながら歩んできた時間は、私たちにとってかけがえない宝物です。

作品コンセプト、振付、曲選び、衣装デザイン、舞台装置など細部にまでこだわり、今の私たちしか表現できない世界観を追い求めながら、一つの作品と向き合い続けてきました。その全てが重なり合い、花を咲かせた瞬間こそが卒業公演の舞台でした。舞台から見た景色、舞台上で味わった感動や達成感は今も鮮明に心に残っています。

ここからそれぞれが新たな道へ進みますが、この研究室で得た学びと仲間との日々を胸に、またそれぞれの場所で花を咲かせられるよう精進してまいります。

最後に、卒業公演の開催にあたりご尽力くださった先生方、助手さん、舞台スタッフの皆様、そしてどんな時も温かく支え続けてくれた家族に、心より感謝申し上げます。



## 卒業公演

### 坂本研究室 屋代千鶴 (卒業生)

坂本研究室は4人で卒業公演に向けて取り組んできました。昨年よりも広い舞台で少ない人数をどう活かすか、どのように工夫したらお客さんに感動を与えられる作品にできるかを、常に試行錯誤しながら創作活動をしてきました。

昨年の3年生パフォーマンスの反省や失敗を活かしながら、どのように作品や踊りを見せたいか、4人ならではの演技をお届けするために練習を重ねました。それぞれの想いがあるからこそ、時にはぶつかり合うこともありましたが、3年生パフォーマンスよりも4人が一丸となり卒業公演に向けて取り組むことができました。

この2年間で得た絆や仲間は一生涯のものであり、ダンスに対してこんなに向き合うことができる環境で過ごせたことは、私にとって大切な学びであり思い出です。この2年を活かし、卒業後もお互いに切磋琢磨しながら1人の大人として成長し続けていきたいです。

最後に卒業公演に関わってくくださった先生方、助手さん、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。



### 石川研究室 石井伶佳 (卒業生)

ジャズダンスを軸とする石川研究室において、私たちはHIPHOPやVOGUEといった多様なジャンルにも挑戦してきました。3年生パフォーマンスでの学びや反省を活かし、卒業公演を成功させるべく、たくさん話し合いを重ねながら作品制作に取り組みました。全員が本気で作品に向き合ったからこそ意見の衝突も多く、本番直前まで調整や話し合いが続きましたが、個性豊かなメンバーそれぞれと向き合いながら作品を作り上げた経験は、今後の自分たちにとって大きな財産になったと感じています。

石川先生には、技術面だけでなくあらゆる面で多くのご指導をいただきました。先生の存在無しでは、全員があんな大きな舞台に立って、自信を持って踊ることはできませんでした。ステージから見たあの景色、踊り終えた後の拍手と歓声は一生忘れることのない、最高の宝物です。

### 岩淵研究室 松本詩 (卒業生)

憧れであった卒業公演が終わって数ヶ月経ちましたが、今でも卒業公演の思い出を振り返ってしまうぐらい、私の中ではとても濃い大切な期間でした。

決して簡単な道のりではありませんでしたが、仲間と作品を追求し続けた日々は、意味のある時間だったと心から思っています。

自信を持って作品を踊れたこと、大切だと思える仲間と先生に出会えたことはきっと、この先でも、大きな原動力になると思います。それぞれの道に進んでも、心の拠り所として存在してくれているみなさんに感謝をしっかりと伝えられるよう、これからも進み続けます。



## 3年生パフォーマンス

### 3年生パフォーマンスとは…

3年生パフォーマンスは、ダンス学科3年生が各実技研究室での学びの成果を作品として発表する舞台です。学生は3年次に研究室を選択し、専門的な学びを深めます。本公演では、作品創作を行う研究室による多彩な作品が上演されます。

#### 石川研究室 榎本結衣 (4年生)

私は、石川研究室の一員として作品に携わる中で、リーダーを務めました。個性豊かな27人が、それぞれ自分の意思でこの研究室を選び集まったからこそ、作品創作の過程では多くの苦難がありました。作品の方向性や振りのニュアンスや演出面など、互いの強い意志がぶつかり合い、思うように進まない場面もありましたが、その度に話し合いを重ね、より良い表現を追い求め続け、その時その時のベストを尽くせていたと思います。

私一人の力では到底乗り越えることはできませんでした。副リーダーや振付者の存在に何度も支えられ、助けられてきたことを強く実感しています。だからこそリーダーとして、全員が自分の考えを大切にしながらも、一つの作品に向かって力を発揮できる環境を作ることが何よりも大切であると感じました。

卒業公演に向けては、それぞれが最も輝ける場面で力を発揮できる、そんな研究室を築いていきたいと強く思っています。この経験は、4年次に向けての貴重なステップになりました。



#### 岩淵研究室 原菜々子 (4年生)

4月から研究室での活動が始まり、個性豊かな20人で3年生パフォーマンスに向けた作品づくりに取り組みました。

私たちが伝えたいこと、やりたいことを軸に、創作班を中心に何度も話し合い、この20人だからこそできる表現を追求しました。試行錯誤を重ねる中で、迷いや葛藤に直面することも多くありましたが、ひたむきさと揺るがぬ意志を持つ仲間が集まるこの場所で、一人ひとりが真剣に向き合い続けました。その時間が、作品に確かな深みを与えてくれたと感じています。時には立ち止まりそうになることもありましたが、岩淵先生が背中を押して下さり、前へ進む力を与えて下さいました。そして本番では、今の私たちだからこそ届けられる舞台をつくり上げることができました。

この経験を糧に、卒業公演では20人全員で悔いのない最高の時間と作品を創り上げられるよう、精進してまいります。

#### 坂本研究室 遠藤彩花 (4年生)

私たち21人は3年生パフォーマンスに向けて全員で何度もテーマについて話し合い、意見を出し合い、「循る光」という作品を完成させました。太陽の光によって力を与えられる側だった私たちが、今度は見ている方々に光(希望)を与える循環をイメージして作品に詰め込みました。

私が思う作品の最大の魅力は、物語が進んでいくと同時に私たちダンサーの心情が目に見えて分かることです！光を与えてくれる絶対的存在に見える太陽でも、雲によって簡単に遮られてしまうこともある、という現象はまるで人生のようで面白いと感じています。なんといっても作品らしさを追求した構成の組み方と、表情管理は見応えがあります。私たちが最後の坂本研究室生ということもあり、それぞれが抱えるものはたくさんあったと思います。

また、昨年度の卒業公演に出演されていた先輩も加わり、仲間として大変貴重な経験をすることができました。卒業公演はさらにパワーアップした姿をお見せします！



## ..... 3年生パフォーマンス .....

### 高野研究室 神山凜 (4年生)

大学生活の折り返し地点となる3年次を迎え、新たに集まった研究室。ジャンルも性格も得意なこともバラバラな9人で、3年生パフォーマンスという舞台に立つこと、そして作品を創り上げ、まとめ上げることへの不安と向き合いながら走り抜きました。

今回は創作班の割り振りはありましたが、「全員で作品を創る」ことに重きを置き、全員が振付や構成に携わりました。その中で、9人で思考を重ねるからこそその良さと、難しさがありました。伝えたいメッセージをどう表現するか、全員が強い想いを持っており、話し合うたびに出てくる新たな視点はとても新鮮で、学びの多い時間となりました。時に、その強い発想力が混乱を招く場面もありましたが、それも作品を熟考するきっかけとなりました。インプロヴィゼーションを用いて制作する高野研究室の特色は、各自の持つエネルギーと表現力の違いを混ぜ合わせて新たな魅力にすることだと思っています。そしてそんな研究室に集まった、このメンバーだからこそ創り上げることができた作品だと自負しています。

ここで結ばれたものが卒業公演ではさらに強固なものとなるよう、精一杯準備をして本番を迎えたいと思います。



### 中村研究室 黒田音々香 (4年生)

私たちの初めての作品『About Us』は、「人の二面性」を主題としました。他者との関わりの中で、演じる行為によって人の個性・アイデンティティが生まれ出されは切り落とされていく、その繰り返しで人は形作られていくことを表す作品です。この作品は自分自身と重なる部分が多く、タイトルを見ただけで誰もが身近に感じ、考えさせられると思います。しかしそれを身体で表現し、20分近い作品に落とし込んだこと、そして、この作品に込めた想いを胸にこの14人で本番に臨むことができたことを私は誇りに思います。それぞれ違った理想やバックグラウンドを持っていましたが、3年生パフォーマンスに向けて全員でテーマを決め、意味をすり合わせ、本番直前まで照明との兼ね合いやより良くするための試行錯誤を通して、最高の作品を披露できたと思います。特に一人一倍力を注いでくれた創作班の4人に感謝を伝えたいです。この期間は楽しかった反面、たくさんの課題が見つかった期間でもありました。卒業公演に向けて創作の仕方や役割、研究室の在り方について一人一人が考えるきっかけになったと感じています。

14人で高め合っていける研究室になれるよう、あと1年力を合わせて大学生活を締めくくる作品を作っていきたいです。



### 渡辺研究室 佐藤愛美 (4年生)

7名いるメンバーのうち5名はバレエ未経験ではありますが、3年生パフォーマンスに向けて日々練習を重ねてまいりました。基礎から丁寧に取り組みながら、お互いに教え合い、支え合うことで、少しずつ技術と表現力を高めています。

私たちのチームはとても仲が良く、常に前向きな雰囲気の中で練習に取り組んでいます。一方で、振り付けを担当できるメンバーに限られており、特定のメンバーに負担が偏ってしまうという課題もありました。しかし、その分、他のメンバーが意見を出したり、動きを一緒に考えたりすることで、チーム全体で作品を創り上げていく意識を大切にしてきました。また、「全員でトゥシューズを履いて舞台に立ちたい」という強い思いを胸に、それぞれが自分の課題と向き合いながら努力を重ねてきました。

現在は、来年1月に予定されている卒業公演に向けて、作品の完成度をさらに高められるよう、一人ひとりが主体的に取り組んでおります。今後もチーム一丸となり、観てくださる方の心に残る舞台を創り上げられるよう精進してまいります。



## ..... 3年生パフォーマンス スタッフ .....

### 舞台監督 小野愛奈 (3年生)

先輩方の舞台である3年生パフォーマンスに、昨年度は運営スタッフとして、今年度は舞台監督として携わることができ、貴重な経験をさせていただきました。

先輩方の舞台をより良いものにしたいという思いがある一方で、責任の重さや不安も多くありました。視野を広げて全体を把握する力や、臨機応変に対応し指示を出す力などが求められ、舞台監督という立場の大変さを実感しました。

また、今年度はスタッフ経験者が少なく私自身も含めゼロからのスタートでしたが、スタッフの仲間や先生方、助手の方々に支えていただき、無事に公演を成功させることができました。本当にありがとうございました。

公演後に多くの方から「良かった」と、言っていただけたことがとても嬉しく、舞台を創る側としてのやりがいや達成感を感じることができ、挑戦して良かったと心から思いました。

次は私たちが舞台に立つ番です。今回の経験を忘れず、舞台に立てることが当たり前ではないと胸に刻み、踊り手としても成長していきたいです。



## ..... 正課活動 .....



### ダンス学科 卒業論文発表会 川口優奈 (卒業生)

研究活動の大きな節目が、論文の執筆と論文発表会です。論文執筆では、研究の目的や方法、結果を整理し、読み手に分かりやすく伝えることが求められます。研究内容を論理的にまとめていく過程を通して、自分たちの学びや課題について改めて深く考えることができ、研究への理解をより一層深めることができました。

私は、学校でダンスを教えることに興味があり、宮本先生のご指導のもと実際に小学校や中学校でダンスを教える貴重な機会をいただき、現場での経験を通してその分野への関心がさらに高まりました。自分が興味を持ったテーマについて研究として深めることができたことは、大きな学びと成長につながったと感じています。

また、執筆期間は4人という少人数で取り組みましたが、少人数だからこそ一人ひとりが積極的に意見を出し合い、互いに刺激を受けながら切磋琢磨できたことも、印象に残る経験となりました。

### rinoさんWS 山崎沙和 (2年生)

rinoさんのワークショップでは、全体を通して基礎の大切さを実感しました。ウォーミングアップでは、ストレッチや筋力トレーニングなどを行いました。この時に意識することをたくさん伝えてくださり、ダンサーとして身体作りの大切さを指導の随所で学びました。コンビネーションを行う際は、一つ一つの動きの魅せ方を細かく教えてくださり、見ている人を楽しませるためには、意識することがたくさんあることを実感しました。振り付けの中には様々なテクニックが入っており、そこで大切なポイントも伝えてくださいました。

最後に質疑応答の時間を設けてくださったため、更にダンサーとして大切にすべきことを学びました。その中で「テーマパークダンスというジャンルはない」という言葉が印象的でした。テーマパークダンスはバレエが主軸にあり、そこにジャズダンスやシアタージャズ、ストリートなど、様々なジャンルが組み合わさってテーマパークダンスになっているということを知りました。今後、他のダンスもどのようなジャンルが基礎となっているか考えると、より深くダンスを学ぶことができると思ったので、踊ったり見たりする時に考えてみようと思いました。



## 正課活動

### Camping Asia 清野まなび (卒業生)

私自身、海外に行くのが初めてで英語も話せない状態だったため、とても緊張しながらこのCampingに参加しました。

私が参加した2つの授業は直接的にダンスを学ぶものではありませんでした。1週目の授業はシアターゲームから始まり、グループに分かれて創作を行うなど、参加者同士で会話する機会が多くありました。会話をしていく中で、参加者がダンサーだけではないからこそその創作の進め方やアプローチに新鮮さを感じたり、自分のやり方が相手にとって新鮮に映ったりと、新たな学びがありました。また、会話をすることで言語の壁にぶつかることもありました。同じグループのメンバーはとても優しく、私にも分かるように説明してくれたり、教えてくれたりと、人の温かさを強く感じました。1週目の最後には創作した作品を発表しましたが、育ってきた国や環境が異なる人たちとパフォーマンスをする経験は新鮮で、観客の反応もこれまでとは違い、とても興味深いものでした。

2週間という期間は長いようで短く、参加したことで多くのことを学び、知ることができた大変貴重な経験となりました。ありがとうございました。



## 集中講義

### フォークダンス 大井かのこ (4年生)

4日間にわたり、多くのフォークダンスを学びました。各国の音楽や動きの特徴だけでなく、その国の歴史なども知ることができ、とても実りのある期間でした。

講義の最初には、ペアでのストレッチや用具を使った体ほぐしを通して身体について学び、ダンスを続ける上で大切な知識を得ることができました。

普段は体の使い方に重きを置きがちですが、フォークダンスでは常にパートナーと組んで踊るため、相手とのコミュニケーションを大切にしながら踊る点が、新鮮でとても印象に残っています。フォークダンスは、男女のパートに分かれており、所作の特徴や組んだ時の体の使い方を知ることができ、それぞれの魅力に触れました。また、踊るだけでなく、ダンス経験のない方にも伝わるよう、動きを紙に書き起こして説明する取り組みも行いました。動きを言葉で伝える難しさを感じると同時に、将来指導者になった際に必要となるスキルを学ぶことができました。

その他にも、グループでの創作活動も行い、時間内に1つの作品を作り上げる大変さを感じながらも、充実した時間を過ごしました。本当にとても楽しかったです。山梨先生、ありがとうございました。



## 部活動

### ソングリーディング部 大津日愛 (4年生)

2026年3月25日に開催された「USA School & College Nationals 2026」に出場し、GRINSが大学編成Jazz部門 第1位、GRINS Bが大学編成Pom部門Large 第2位、GRINS Cが大学編成Pom部門Large 第4位をいただきました。また、GRINSは大学編成Dance グランプリと文部科学大臣賞を受賞しました。

2025年度もソングリーディング部の活動に多くのご支援をいただき、誠にありがとうございました。私が主将を務めさせていただいたこの1年は、昨年出場したICU世界チアリーディング選手権大会での学びを活かしながらも、悔しい思いを経験することもありました。それでも仲間の大切さを胸に、私たちにしかできない作品を追求し、日々の活動に励みました。

大会に向けて、3チームで互いを高め合って臨むことができ、本番では大好きな仲間と踊れる喜びを噛み締めながら、心の底から楽しんで踊ることができました。

私たちがここまで活動を続けてこられたのは、日々支えてくださる皆様のおかげです。今後もこの環境への感謝を忘れず、精進して参ります。



## 部活動

### ダンス・プロデュース研究部

#### 尾村茉莉 (4年生)

ダンス・プロデュース研究部は、ダンスを踊るだけでなく、振付創作や企画・制作等、ダンスを多角的に探求する活動を行い、身体表現の可能性を広げることを目指し、外部講師による定期的なワークショップや作品出演にも取り組んでいます。また、地域との交流も盛んであり、烏山地域キャラクター「からびよん」との活動にも積極的に参加しています。

3月には、コロナ禍により長らく休止していた自主公演を、7年ぶりに開催することができました。新しく完成した二階堂トクヨ記念講堂にて、お客様と同じ時間と空間を共有できたことを、大変嬉しく思っております。

本公演では、舞台を構成する企画・制作・演出の三要素すべてを部員の手で行いました。このような経験ができる部活動は多くはなく、私たちにとって大きな学びとなりました。未熟な点もあったかと存じますが、学年の垣根を越えて切磋琢磨し、一つの舞台を創り上げられたことを誇りに思っています。

ダンス・プロデュース研究部は、これからも多様なダンスの在り方を模索しながら活動を続けて参ります。今後とも温かく見守っていただけますと幸いです。



### 舞踊部

#### 鈴木陽代里 (4年生)

私は、1年生から舞踊部に所属し、発表会では毎年様々な作品に参加してきました。2025年度舞踊部発表会では、ダンサーとして出演するのみでなく、主将として企画・運営にも携わりました。

初めて運営に携わり、多くの方のご協力のもと、成り立っている発表会だということを実感しました。幹部やスタッフの方々といかに連携を取れるかという部分が、発表会を実行するにあたって肝となっていました。初めてのことで上なくいかないことも多かったです。毎日何かに追われている発表会期間でしたが、幹部の3人と様々な方に支えられて乗り越えたこの経験は一生の財産であり、人としてもダンサーとしても大きく成長する機会となりました。

また、多くの方との繋がりもでき、その後の学校行事で気にかけてくださる方もいらっしやいます。改めて、舞台は1人では作り上げることができないと実感しました。これからも感謝を忘れずに舞踊活動や学校行事に取り組んでいきたいです。ご協力いただいた皆様、お越しくださったお客さま、本当にありがとうございました。



### モダンダンス部 (創作舞踊発表会)

#### 小林楓花 (4年生)

私達モダンダンス部は、2025年10月29日に「第59回創作舞踊発表会」を開催し、多くの方にご来場いただきました。昨年に引き続き、たくさんの方に作品をご覧いただけたことを、大変嬉しく思います。

第一部では「不思議の国のアリス」に挑戦しました。物語の世界観や登場人物の個性を、踊りで表現する難しさを体感しながらも、部員一人ひとりが工夫を凝らし、オリジナリティあふれる作品に仕上げることができました。

続く第二部、第三部では、モダンダンスにとどまらず、ジャズダンス調の作品やコミカルな作品など、幅広いジャンルに挑戦し、多彩な表現をお届けしました。発表会に向けて、部員全員で力を合わせ、最後まで駆け抜けることができました。

また、本発表会の開催にあたり、多くの方々に支えていただきました。部員のために熱心にご指導くださった坂本先生をはじめ、ご協力いただいたすべての皆様に、心よりお礼申し上げます。

今年度も、より良い発表会を目指し、部員一丸となって精進してまいります。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



## ..... 新入生の言葉 .....

### Aクラス 川島梨誉 (1年生)

入学してからまだ10日ほどですが、実技や座学の授業、バレエのオーディション、7月に行われるSHOWCASEの準備などを通して、多くの刺激を受けながら日々を過ごしています。これまで、それぞれが違うジャンルを学び、得意なことやそうでないこともある私たちですが、ダンスが大好きだという気持ちは大きく、共通しているのだと感じました。

高校までとは違い、大学では自分の行動や取り組み方に、より大きな責任を持つ必要があると感じています。責任という言葉に萎縮してしまうこともありますが、その分1つ1つの経験が自分を成長させ、将来に繋がるものになると考えています。

将来は、ダンスの楽しさや表現することの喜びを伝えられる、保健体育の教員になることが目標です。そのためには、まず私自身が踊ることの楽しさを体感し、感じた先でその魅力をこぼにし、指導法や教育について学び続けたいです。

今こうしてダンス学科に入学し、学び、仲間や先生方、先輩方と出会えたことが当たり前ではないことを忘れず、これからも精一杯努力していきます。どうぞよろしく願いいたします。



### Bクラス 渡邊みなみ (1年生)

私は、出身地の舞台芸術を表現者、そして指導者の両面から盛り上げていきたいと考えています。そのために、ダンスの技術だけでなく、形のない表現を言語化する力や、幅広い視点から物事を捉える力を身につけたいと思い、大学進学を決めました。憧れていた日本女子体育大学に入学し、新しい環境にも少しずつ慣れてきました。そして幸運にも、一緒に踊り、同じ目標に向かって努力できる仲間に出会うことができました。苦手なことや分からないことも一緒に練習し、教えてくれる仲間の存在は、日々大きな刺激になっています。不安もありましたが、笑顔で声をかけてくれる仲間の姿に安心すると同時に、強い尊敬の気持ちを抱いています。

私は高校卒業まで、ジャズダンスとコンテンポラリーダンスを中心に取り組んできました。これからクラシックバレエやモダンダンスなど、これまで触れてこなかったジャンルを学ぶにあたり、怖気づくことなく全力で挑戦していきます。

一回一回の授業を大切に、多くのことを吸収しながら、表現者として、そして一人の人間として成長していけるよう、学び続けていきます。



## 編集後記

最後までご覧いただき、ありがとうございます。

新年度が始まり、学生たちはそれぞれ新たな挑戦へ向かっています。踊れる環境に常に感謝し、日々、積極的に学び挑戦していきます。本誌を通して、ダンス学科の魅力がたくさん伝わるよう努めていきたいです。よろしく願いします。

木村ゆり(3年生)・藤林愛子(3年生)

## 大学

### 〈2026年度オープンキャンパス〉

5/24(日) 6/21(日) 7/12(日) 7/23(木)\* 8/2(日)

8/23(日) 10/24(土)・25(日)\* 12/20(日)

2027/3/21(日・祝)

\*7/23(木): ナイトオープンキャンパス

\*10/24(土)・25(日): ミニオープンキャンパス (健美祭(大学祭)中に開催)

### 〈ダンス学科体験授業〉

5/24(日) 6/21(日) 8/2(日) 8/23(日) 12/20(日)

@日本女子体育大学

\*オープンキャンパス内で開催

## ダンス学科

### 〈SHOWCASE2026〉

7/12(日) @日本女子体育大学 総合体育館 多目的ホール

### 〈第87回ダンス・ワーク・セミナー〉

8/19(水)・20(木) @日本女子体育大学

### 〈第25回3年生パフォーマンス〉

11/8(日) @日本女子体育大学 学園創立百周年記念館 二階堂トクヨ記念講堂

### 〈第79回全国中学校・高等学校ダンスコンクール〉

11/22(日) @日本女子体育大学 総合体育館 アリーナ(特設会場)

### 〈第25回 日本女子体育大学 ダンス学科 卒業公演〉

2027/1/8(金)・9(土) @府中の森芸術劇場 ドリーむホール



# ダンスで世界を変えていきたい

DANCE FOR ALL

多彩なダンス・スペシャリストの育成



ニチジョ ダンス学科ではこんな資格が取得できます！

- 中学校教諭一種免許状（保健体育）
- 高等学校教諭一種免許状（保健体育）
- 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）※
- 小学校教諭一種免許状※

※他大学との連携により、科目等履修生として学び、受講料が別途必要になります。

## ダンス芸術

クラシックバレエ

モダンダンス

コンテンポラリーダンス

ジャズダンス

## ダンス指導法

学校教育

プロフェッショナル

生涯教育

（幼児～高齢者、障がい者）

## ダンスマネジメント

作品制作

舞台上演（音響・照明）

舞台演出

マルチメディア  
（映像・音楽編集）

JWPE 日本女子体育大学

Japan Women's College of Physical Education

体育学部 ダンス学科 / 大学院 スポーツ科学研究科

〒157-8565

東京都世田谷区北烏山 8-19-1

TEL: 03-3300-2895 (ダンス学科助手室)



日本女子体育大学 HP



ダンス学科公式  
Instagram

日本女子体育大学 ダンス学科

# DanceLetter

Vol.  
49



日本女子体育大学 ホームページ



日本女子体育大学ダンス学科公式Instagram  
nichijo\_dance

発行日 2026年5月24日(日)

©スタッフ・テス株式会社